



2016年7月29日発行

セブンスデーアドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

夏真っ盛りで暑さが増し、涼を求めて家じゅうを大移動している毎日ですが、保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。最近、出張でよく飛行機に乗る機会がありますが、マナーの悪さが目につきます。飛行機の離発着には電波の発する携帯やタブレットを使用しないようにとアナウンスがあります。しかし、耳が聞こえないのか、使っている人がいるのです。良く見るとイヤホンを使用していますので、耳の聞こえない人でもありません。また、荷物の受け取り場所から待合室に出ると、入ることができませんと書いてあるにも関わらず、出て入ってこようとして係員に注意を受けている人がいました。一種のルール違反です。こういう人はソーシャル・レファレンシングがよく育てられていない人であることが、コロラド大学のロバート・エムディ教授の研究で分かります。

エムディ教授によると「ソーシャル・レファレンシングとは人間が社会的なルールを守りながら生きていくために、その基盤をなす重要な感情であるともいえます。人が人と共感し合って、そのことを誇りと感じ合って生きるために必要な感情なのです。このソーシャル・レファレンシングは生後6か月から2歳に最も感受性よく育つといわれます。」とあります。

乳児期の終わりから幼児期の前半に、子供は人を信頼する感情がもっともよく育つということです。その時期をはずすと、後からではなかなか育ちにくいようです。習い事を幼い時からやらせた方が良いといえます。例えば外国語を学んだ人はわかりませんが、RとLの発音を聞き分けることは難しいです。しかし、ネイティブの人は乳児期からしっかり親の見本を聞き育ちますので問題なく話せるようになります。このような外国語を話せなかったからといって、私たちの生活に影響を受けることはありません。ソーシャル・レファレンシングが十分育っていない人は別の問題です。子供の将来にかかわる問題です。ルール違反をし、自己中心的な言動を取り続ける生活は悲惨な人生を送ることになります。外国語の素養が不十分なことはわけが違います。ソーシャル・レファレンシングの良く育つ時期に子供と多いにかかわっていただきたいと思います。特に子供が何かするとき問題にぶつかり助けも求めて振り向くとき、そこに親がいて、または保育士がいて「大丈夫だよ」と声をかけてあげる。また対応策を教えてあげることによってソーシャル・レファレンシングの感情や感性は高められていきます。しかし、そこに振り向いても誰もいなければ、子供のソーシャル・レファレンシングは身につけません。いかに幼い時の教育が大事であるかを教えています。社会に出てもしっかりルールを守り協調性のある大人に育てるためにも今から子供達とかかわっていきたいと思います。

園長 富浜宗言

「快活、無我、感謝の心には生命を与えるおどろくべき力がある。」

エレン・ホワイト（宗教家、教育者）

